

The background features a series of concentric, stylized arches or 'U' shapes that create a sense of depth and movement. A large, solid white circle is positioned in the center, serving as a frame for the title text. The arches are drawn with thin lines, and some areas are filled with a light gray stippled pattern.

賞になった 人名事典

日外アソシエーツ

凡 例

1. 本書の内容

本書は、賞に名が冠されている人物を対象とし、その人物と賞の概要を掲載する人名事典である。

2. 収録対象

- (1) 人物については、日本で開催された賞の中で名前を冠し、経歴や賞との関連が明らかな人物を対象とした。日本人名を冠する海外開催の賞も一部収録した。
- (2) 賞については、正式名称・旧称・通称・別称に人名を冠する賞、部門名に人名を冠する賞を対象とした。また、人物の代表作品名等を賞名に含んでいる賞も、人物由来の賞として収録した。
- (3) 人名を冠している賞（部門）でも、審査員賞の類、ごく短期間だけ設置された部門、在学生・卒業生を表彰する学校主催の賞、人物や概要が不明である賞は対象外とした。
- (4) 収録数は、人名見出し 1,356 件、賞見出しのべ 1,639 件である。

3. 記載事項・排列

(1) 人物

- 1) 人名見出しは、一般によく知られている名前を採用した。見出しとして採用しなかった名前は適宜参照を立てた。
- 2) 人名見出しの排列は、姓・名をそれぞれ一単位とし、姓・名の順に読みの五十音順とした。濁音・半濁音は清音扱いとし、ヂ→シ、ヅ→スとした。拗音・促音は直音扱い、長音符は無視した。

3) 記載項目

人名 人名よみ 外国人の原綴

職業・肩書／生年月日／没年月日／出生地／出身地／本名／別名／学歴／家族・親族／経歴 *一部の人物には肖像写真を掲載

(2) 賞

- 1) 人物の下に、その名を冠した賞を掲載した。賞名見出しには原

則として最新の賞名を採用したが、人名を冠していた時期の旧称を見出しとした場合もある。部門賞に人名を含む場合は、賞名の後に〔 〕囲みで記載した。

- 2) 賞名見出しは読みの五十音順に排列した。

3) 記載項目

◇賞名〔部門賞名〕 受賞期間 ㊦ 旧称 ㊧ 別称

賞の由来・趣旨／主催者／選考方法／選考基準／部門・賞
記載情報は確認できる範囲で最新のものに拠った。

4. 分野別索引

- (1) 本文で見出しとした人物および賞を、それぞれ分野ごとに五十音順に排列し、本文の掲載ページを示した。分野の種類、排列は「分野別索引目次」(p660)に示した。
- (2) 人名を冠する部門賞は賞名の後に〔 〕囲みで補記したが、部門賞が多い(5件以上)賞については補記を省略した。

5. 地域別索引

- (1) 都道府県ごとに賞名の五十音順に排列し、本文の掲載ページを示した。地方で開催されている賞や地域性のある賞を索引対象とし、地域性の乏しい東京 23 区などに所在する財団や企業等の主催賞は対象外とした。
- (2) 賞の開催地やゆかりの市区町村名を《 》囲みで適宜補記した。
- (3) 人名を冠する部門賞は賞名の後に〔 〕囲みで補記した。
- (4) 都道府県名は概ね北から南へと排列した。

6. 主要参考資料

人物情報：データベース「Who Plus」

賞情報：「賞の事典」シリーズ(日外アソシエーツ刊)

『賞と記録の人名事典』自由国民社 1974 年

各賞主催団体のウェブサイト等

肖像写真の出典：

国立国会図書館「近代日本人の肖像」 <https://www.ndl.go.jp/portrait/>

『復刻 近代日本人名録 大日本博士録』日外アソシエーツ 2023 年

目次

【あ】

会田 由	1
鵜光	1
青木 固	1
青木 繁	2
青木 保	2
青山 杉雨	3
青山 なを	3
青山 政次	4
赤池 弘次	4
赤木 正雄	5
赤崎 勇	5
明石 和衛	6
赤塚 不二夫	6
赤松 常子	7
赤松 良子	7
赤見 昌一	8
秋田 実	8
秋野 豊	9
秋元 松代	9
秋山 喜代	10
秋山 静	10
秋山 仁	10
秋吉 久美子	11
芥川 也寸志	11
芥川 龍之介	12
暁鳥 敏	12
浅井 忠	13
朝河 貫一	13
浅川 範彦	14
朝倉 希一	15
朝倉 文夫	15
浅田 長平	16
浅野 順一	16
浅野 梨郷	16
浅原 源七	17
蘆原 英了	17
芦原 義信	17
東 敦子	18
畦地 梅太郎	19
阿曾 佳郎	19
安宅 英一	20
足立 吟也	20
足立 正	20
安達 峰一郎	21
厚川 昌男 → 泡坂 妻夫 (あわさか・つまお)を見よ	
厚木 勝基	21
阿南 惟敬	21
姉崎 正治	22
阿部 真之助	22
天沢 退二郎	23
綾 宏	23
鮎川 哲也	24
鮎川 信夫	24
新井 静一郎	25
荒井 なみ子	25
荒木 暢夫	26
荒谷 直之介	26
有賀 槐三	26
有島 武郎	26
有馬 啓	27
有馬 大五郎	28
有馬 頼寧	28
泡坂 妻夫	28
栗屋 潔	29
アンデルセン, ハンス・ク リスチャン	29
安東 洪次	30

【い】

安藤 博	31
安藤 広太郎	31
安藤 百福	32
飯島 春敬	32
飯島 藤十郎	33
飯田 精太郎	33
飯田 蛇笏	33
飯高 一郎	34
井伊谷 鋼一	34
井植 敏	35
井植 歳男	35
五十嵐 喜芳	36
いがらし みきお	37
井狩 春男	37
井口 秋子	37
井口 竹次郎	38
井口 基成	38
池田 栄一	39
池田 英一	39
池田 亀三郎	40
池田 満寿夫	40
池谷 信三郎	41
池原 貞雄	41
池見 酉次郎	42
石井 十次	42
石井 武夫	43
石井 漢	43
石井 みどり	44
石井 茂吉	44
石川 一郎	44
石川 薫	45
石川 啄木	45
石川 栄耀	46

目次

えんと

石川 中	47
石川 弥八郎 (16代)	47
石坂 洋次郎	48
石津 謙介	48
石田 天海	49
石田 波郷	49
石橋 厚水	50
石橋 湛山	50
石原 裕次郎	51
石森 延男	52
井尻 進	52
泉 鏡花	53
磯 永吉	54
磯村 英一	54
伊丹 十三	55
市井 三郎	55
市川 栄次郎	56
市河 三喜	56
市川 雷蔵 (8代目)	57
市村 清	57
一柳 慧	59
一休宗純	59
伊藤 看寿	60
伊藤 熹朔	60
伊藤 清永	62
伊藤 健三	62
伊東 紘一	62
伊藤 左千夫	63
伊東 静雄	63
伊藤 整	64
伊藤 傳三	64
伊藤 知己	65
伊藤 保平	65
伊藤 幸夫	66
伊藤 廉	66
糸賀 一雄	66
伊奈 長三郎	67
伊奈 信男	68
稲田 三之助	68
稲盛 和夫	69
乾 崇夫	69
井上 宇市	70
井上 節子	70
井上 春成	71
井上 靖	71
猪瀬 博	72
伊波 普猷	73
井原 西鶴	73
井深 大	73
今井 繁三郎	74
今村 荒男	75
彌永 昌吉	75
入澤 彩	76
入澤 宏	76
入野 義朗	77
入山 東石	78
岩城 宏之	78
岩切 章太郎	79
岩崎 徹太	79
岩下 俊作	80
岩瀬 慶三	80
岩瀬 弥助 (4代目)	81
岩谷 時子	81
岩谷 直治	82
岩橋 武夫	82
巖谷 小波	83
上原 正吉	87
植村 直己	88
ウェルズ, スタンリー	88
牛場 大蔵	89
宇田 道隆	89
内田 勝	89
内田 清之助	90
内田 百閒	90
内田 康夫	91
内田 祥三	91
内山 喜久雄	92
内山 晋	92
ウッド, マーティン	92
内海 重典	93
右手 和子	93
宇野 重吉	94
梅棹 忠夫	94
梅澤 演夫	95
梅谷 友吉	95
浦岡 敬一	95
ト部 兼好 → 兼好法師 (け んこうほうし)を見よ	
江口 隆哉	96
江崎 玲於奈	96
江田 鎌治郎	97
エディンバラ公フィリップ	
衛藤 五郎	98
江藤 純平	98
江藤 俊哉	99
江戸川 乱歩	99
江橋 節郎	100
海老原 喜之助	100
江間 章子	101
江馬 務	101
円空	102
遠藤 石村	102

【え】

【う】

ウィルヒョウ, ルドルフ・ ルードヴィヒ・カール	83
植木 力	84
上島 鬼貫	84
上田 碩三	84
上田 英雄	85
上田 三四二	85
上田 泰	85
上野 英三郎	86
上野 彦馬	86
上原 敬二	87

年)～

作曲家の芥川也寸志の功績をしのいで、平成2年に創設された。父、龍之介の「芥川賞」と並んで親子二代、異分野で賞の冠に付けられるのは世界的にも珍しい例。令和1年に「芥川作曲賞」から「芥川也寸志サントリー作曲賞」へ賞名変更した。

主催：(公財)サントリー芸術財団

選考方法：選考委員の選出後公開コンサートにて審査・選出

選考基準：[対象] 前年1月1日から12月31日の間に国内外で初演された新進日本人作曲家による交響管弦楽曲。[基準] 最も清新かつ将来性に富む作品

部門・賞：賞金150万円。新しい交響管弦楽曲を100万円で委嘱され、同財団主催の公演で初演される

芥川 龍之介 あくたがわ・りゅうの

すけ

小説家

[生] 明治25年(1892)3月1日 [没] 昭和2年(1927)7月24日

[出生地] 東京市京橋区入船町(東京都中央区)

[別名] 別号：柳川隆之介、澄江堂主人、寿陵余子、俳号：我鬼

[学歴] 一高文科卒、東京帝国大学文科大英文科[大正5年]卒 [家族・親族] 長男：芥川比呂志(俳優・演出家)、二男：芥川多加志、三男：芥川也寸志(作曲家)、孫：芥川袖実子(アクセサリーデザイナー)



牛乳業を営む新原家の長男として生まれたが、生後間もなく母の実家である芥川家に引き取られ、明治37年正式に伯父の養子となった。芥川家は幕府の奥坊主の家柄。東京府立三中から一高文科に進み、同級に菊池寛、久米正雄、松岡譲、土屋文明、恒藤恭らがいた。早くから文学に親しみ、大正2年東京帝国大学文科大英文科に入学、3年菊池や久米らと第三次「新思潮」を刊行。柳川隆之介の筆名でアナトール・フランスやイエーツの翻訳、初の小説「老年」などを発表。4年夏目漱石

の知遇を得、5年第四次「新思潮」創刊号に発表した「鼻」が漱石に激賞された。5年大学を卒業すると、海軍機関学校の英語教官となって鎌倉に移るが、8年大阪毎日新聞社の社員となり創作に専念。この間、「芋粥」「手巾」などで注目され、作家としての地位を確立。6年第一短編集「羅生門」を出版。初期は中世の説話集に題材をとった作品が多く、児童文学雑誌「赤い鳥」に発表した童話「蜘蛛の糸」「杜子春」もよく知られている。短編小説に優れ、晩年には「保吉もの」などで新しい作風にも取り組んだが、やがて「将来に対する唯ぼんやりした不安」に捕らえられ、昭和2年致死量の睡眠薬を飲んで自殺した。他の代表作に小説「地獄変」「奉教人の死」「戯作三昧」「枯野抄」「トロッコ」や警句集「侏儒の言葉」などがあり、最晩年の代表作「河童」にちなんで命日は「河童忌」と名付けられた。

◇芥川龍之介賞 第1回(昭10年上)～
通称、芥川賞。芥川龍之介の名を記念し、文藝春秋の菊池寛が「文藝春秋」昭和10年1月号に「芥川・直木賞宣言」を発表して、直木賞と同時に創設。新進作家の登龍門として、最も権威ある賞とされている。

主催：(公財)日本文学振興会

選考方法：非公募
選考基準：[対象] 新聞、雑誌(同人誌を含む)に発表された新人の短編小説のうち最も優秀なものに贈られる

部門・賞：正賞 時計、副賞100万円

選考基準：[対象] 新聞、雑誌(同人誌を含む)に発表された新人の短編小説のうち最も優秀なものに贈られる

部門・賞：正賞 時計、副賞100万円

暁烏 敏 あけがらす・はや

僧侶、仏教学者、歌人

[生] 明治10年(1877)7月12日 [没] 昭和29年(1954)8月27日

[出生地] 石川県石川郡出城村(白山市)

[別名] 俳号：非無

[学歴] 真宗大学卒、東京外国語学校露語科中途退学時代、清沢満之の影響を受け、大学卒業後は清沢の浩々洞同人として「精神界」を編集、後に「薬王樹」「願慧」「同帰」などを創刊する。大正10年「生くる日」を刊行、以後「にほひくさ叢書」を多く刊行。昭和初期より日本精神を研究し、浄土真宗大谷派の革新運動

を展開、26年から27年にかけては東本願寺の宗務総長をつとめた。僧侶であるが、短歌、俳句、詩も多く作った。「暁烏敏全集」(全27巻、涼風学舎)がある。

◇暁烏敏賞 第1回(昭60年)～

石川県白山市出身の歌人、仏教学者・暁烏敏にちなみ、同市の文化的伝統を更に継承発展させ、併せて21世紀を担う青少年の健全育成を図り、広く有為な人材の輩出を目的として昭和59年5月に創設された。第1部門「哲学・思想に関する論文」、第2部門「子どもの育成に関する論文・実践記録またはエッセイ」がある。

主催：白山市

選考方法：公募

選考基準：[対象] 第1部門：哲学・思想に関する論文。第2部門：子どもの育成に関する論文・実践記録またはエッセイ

部門・賞：第1部門(1点)：表彰状、正賞「火焰様式楽人像」と副賞50万円。第2部門(1点)：表彰状、正賞「覚華鏡」と副賞30万円

浅井 忠 あさい・ちゅう

洋画家

[生] 安政3年(1856)6月21日 [没] 明治40年(1907)12月16日

[出生地] 江戸京橋木挽町(東京都中央区)

[別名] 幼名：忠之丞、常保、号：黙語、木魚

[家族・親族] 甥：浅井真(洋画家)



下総佐倉藩士・浅井常明の子。藩の絵師・黒沼槐山に花鳥画を習う。明治6年上京し、箕作秋坪の許で英学を学ぶが、8年国沢新九郎の画塾・彰技堂に入門して洋画をはじめた。9年工部美術

学校に創立と共に入学し、フォンタネージに師事。11年フォンタネージの帰国後は同校を退学して小山正太郎らと十一字会を結成し、明治10年代における洋画排斥の風潮に耐えて互いに画技を研鑽した。22年小山、松岡寿らと明治美術会を創立し、同会展に「春畝」「収穫」などを発表するなど、その中心メンバーとして活躍。戦後28年「旅順戦後の搜索」を

第4回国内勸業博覧会に出品し、妙技二等賞を受けた。31年東京美術学校教授に就任。32～35年フランスへ留学し、印象派に影響を受けた油絵「グレーの秋」「グレーの柳」などを制作。中沢岩太の懇望により、帰国後は京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)教授に転じ、傍ら、36年自宅に聖護院洋画研究所を開設。39年関西美術院が創立されるとその院長となり、関西洋画界の育成に努めた。39年東宮御所造営に際して壁画を委嘱され、「武士の山狩」を制作。他の代表作に「冬木立」「中沢岩太博士像」などがあり、油彩のほか水彩画や陶磁器・刺繍などの図案でも秀作を残した。また、挿絵も多く、「ホトトギス」には創刊以来、表紙画・口絵・挿絵を描き、夏目漱石の「吾輩ハ猫デアル」などの挿絵も手がけた。門下に安井曾太郎、梅原龍三郎らがいる。

◇浅井忠記念賞展 第1回(昭59年)～第4回(平9年)

昭和58年、千葉県立美術館開設10周年記念事業の一環で、公立美術館初の全国公募展として創設された。千葉県出身の洋画家・浅井忠の精神を現代に生かし、現代美術の振興に寄与する作品を選出することを目的としている。

主催：千葉県立美術館

選考方法：公募

選考基準：[資格] 国籍・経歴・年齢不問。[対象] 油彩、水彩等の洋画系の平面作品で、「リアリズムの追求」を主題にし、第4回の場合平成4年12月以降に制作された具象的傾向の未発表作品

部門・賞：大賞(1点)：賞状と副賞200万円、優秀賞(3点)：賞状と副賞各100万円

朝河 貫一 あさかわ・かんいち

歴史学者(西洋中世史、比較法制史、東洋封建制史)

[生] 明治6年(1873)12月22日 [没] 昭和23年(1948)8月11日

[出生地] 福島県二本松町(二本松市)

[学歴] 東京専門学校(現・早稲田大学)[明治28年]卒、ダートマス大学[明治32年]卒、エール大学大学院修了

明治28年米国ダートマス大学に留学。さらに

新たな教訓を引き出すすぐれた企画・記事に贈る。第1回の授賞は平成19年（対象は平成18年の記事）。

主催：新聞労連

選考方法：自薦他薦を含め職場からの応募も可能

選考基準：賞創立の主旨にそうもの

部門・賞：賞状・盾、賞金

樋口 一葉 ひぐち・いちよう

小説家、歌人

〔生〕明治5年（1872）5月2日 〔没〕明治29年（1896）11月23日

〔出生地〕東京府第二大区一小区内幸町（東京都千代田区）

〔本名〕樋口奈津（ひぐち・なつ） 〔別名〕浅香のぬま子、春日野しか子、樋口夏子



明治19年14歳の時に歌人・中島歌子の萩の舎塾に入り、早くから歌の才能を示す。20年長兄が早世、22年父を失くし、二兄と姉が家を出ていたことにより、17歳で家督を相続。父が事業の

失敗により多額の負債を残したため、婚約者から一方的に婚約を解消され、母と妹を抱えて針仕事などをして生計を立てる。萩の舎塾の先輩である田辺花圃（のち三宅に改姓）が小説で稿料を得たことに刺激されて小説家を志し、24年朝日新聞の小説記者であった半井桃水に師事。25年処女作「闇桜」を桃水主宰の「武蔵野」に発表する。同年「都の花」に出世作となる「うもれ木」を発表。26年生活に行き詰まり、吉原遊郭近くの下谷龍泉寺町に転居して荒物や子ども向けの駄菓子を商うが失敗。27年本郷丸山福山町に転居、創作に専念して「大つごもり」「にぎりえ」「十三夜」「わかれ道」などを次々に発表。中でも「たけくらべ」は文芸誌「めさまし草」誌上の鼎談合評「三人冗語」で森鷗外、幸田露伴、斎藤緑雨の絶賛を受けた。また高山樗牛など他の批評家からも賞賛され、女流作家の第一人者として、「今紫式部」「今清少納言」と呼ばれた。しかし、29年初夏から体調をくず

し、同年11月肺結核のために死去した。他の作品に「ゆく雲」「われから」「うらむらさき」などがあり、20～29年に断続的に書かれた日記をまとめた「一葉日記」も高い評価を得ている。

◇一葉賞 第1回（昭19年）〔1回のみ〕

日本文学報国会により、昭和19年に創設された賞であるが、1回の授賞のみで終わった。

主催：日本文学報国会

ヒグチ、タケル

薬学者

〔生〕1918年 〔没〕1987年3月24日

〔出生地〕アメリカ、カリフォルニア州

日系アメリカ人。ウィスコンシン州立大薬学校教授を経てカンザス州立大物理化学科主任教授となった。店頭売りの風邪薬や欧州で広く使われている避妊薬などで、除々に体内の血流に入っていく薬剤を開発したのをはじめ化学、薬学分野で100以上の特許を持っていた。

◇日本薬剤学会賞〔タケル&アヤ・ヒグチ記念賞/記念荣誉講演賞〕 平1年度～

タケル&アヤ・ヒグチ記念賞はタケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上、教育上、医療上、医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびにアヤ夫人の功を記念して設けられた。国内対象の記念賞と国外対象の記念荣誉講演賞を毎年交互に授賞する。

主催：日本薬剤学会

選考方法：他薦のみ

選考基準：〔資格〕記念賞：国内の研究者。記念荣誉講演賞：外国人。〔対象〕学問上、教育上、医療上、医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げた者

部門・賞：タケル&アヤ・ヒグチ記念賞：賞状と副賞。カンザス大学において講演を行う。タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞：表彰楕と副賞

ピコ・デラ・ミランドラ Pico della

Mirandola, Giovanni

人文主義者

〔生〕1463年 〔没〕1494年

〔出生地〕イタリア

〔学歴〕ボローニャ大学、パドバ大学卒

北イタリアミランドラ領主の子として生まれ、ボローニャ大学で法学、パドバ大学で哲学を学ぶ。フィレンツェで親交を結んだフィチーノとともにルネサンス期の新プラトン主義を代表する哲学者となる。世界の宗教・哲学的伝統は共通の源泉を持つとしてその融和をめざす「哲学的平和」を提唱し、1486年にローマで公開討論を試み、全世界から哲学者・神学者を招くも、教会から異端視されフランスに逃れた。この時の演説草稿「人間の尊厳について」は広く知られる著作となった。

◇ピーコ・デッラ・ミランドラ賞 第1回（昭63年）～第15回（平19年）

イタリア語作品の優れた日本語の翻訳に対して贈られる。昭和63年に創設されいったん中断されたが、平成26年、後継として須賀敦子翻訳賞が新設されている。

主催：イタリア文化会館

土方 定一 ひじかた・ていいち

美術評論家、美術史家

〔生〕明治37年（1904）12月25日 〔没〕昭和55年（1980）12月23日

〔出生地〕岐阜県大垣市

〔学歴〕東京帝国大学文学部美学科〔昭和5年〕卒、東京帝国大学大学院美学美術史修了

旧制水戸高時代、舟橋聖一らと文芸同人誌「彼等自身」を創刊。大学卒業後、昭和6年ドイツに留学。9年明治文学談話会に入り、「明治文学研究」の編集にあたるなど文芸評論家として活躍。10年草野心平らと詩誌「歷程」を結成、以後同人。同年から美術批評も行い、16年「近代日本洋画史」「岸田劉生」を刊行。17年華北総合調査研究所（北京）に勤め、近代中国思想史を研究。戦後、20年中国から引揚げ、再び美術批評に転じ、24年千葉工業大

学教授、26年神奈川県立近代美術館副館長、40年同館長に就任。また日本美術評論家連盟の初代会長、日本美術館企画協議会会長として戦後の美術館活動をリード、また地方公立美術館の設立を指導してきた。「ブリューゲル」で毎日出版文化賞、「ドイツ・ルネッサンスの画家たち」で芸術選奨を受賞したほか、48年には幅広い美術活動に菊池寛賞が贈られた。「土方定一著作集」（全12巻・平凡社）のほか、多くの著作がある。

◇神戸須磨離宮公園現代彫刻展〔土方定一記念賞〕 土方定一記念賞：第8回（昭57年）～第15回（平10年）

都市における彫刻のあり方を追求する意図をもって、昭和43年からビエンナーレ形式で開催されている。毎回異なるテーマ設定のもとに作品を公募し、活躍中の作家の技と発想を競い、また気鋭作家を世に紹介する場となることを目的とする。平成10年第15回授賞後、休止。

主催：神戸市、神戸須磨離宮公園現代彫刻展運営委員会、朝日新聞社

選考方法：公募

選考基準：〔作品規定〕各回のテーマにそった野外展示可能な彫刻作品。応募は50立方cm以内のマケット

部門・賞：大賞（神戸市長賞）（1点）：副賞500万円。土方定一記念賞（1点）：副賞300万円。朝日新聞社賞（1点）：副賞100万円〔ほか〕

日高 孝次 ひだか・こうじ

海洋物理学（地球物理学、海洋物理学）

〔生〕明治36年（1903）11月4日 〔没〕昭和59年（1984）8月15日

〔出生地〕宮崎県

〔学歴〕七高造士館〔大正12年〕卒、東京帝国大学理学部物理学科〔大正15年〕卒

大正15年中央气象台技手、昭和2年技師となり海や湖の水の震動の力学的研究と海流理論などに取り組み、9年31歳の若さで帝国学士院賞東宮御成婚記念賞を受賞。17年東京帝国大学理学部教授に転じ、地球物理学第一講座を担任。太平洋戦争中は海流を利用した輸送を提唱した。37年東京大学に新設された海洋

分野別索引目次

人 名

文学	661
文学全般／小説／記録文学・評論・随筆／詩・短歌・俳句・川柳／戯曲・脚本／児童文学・絵本	
文化	665
文化一般／学術・学芸／出版・読書・図書館／報道・ジャーナリズム／思想・哲学・宗教／人権・男女共同／政治・法律／皇族・王族／福祉・教育／郷土・地域／翻訳／諸芸／文化その他	
産業	668
ビジネス・産業／農林水産業	
科学	670
科学総合／数学／理学／工学／情報科学／医学／薬学／農学	
美術	674
美術総合／絵画／版画／書／彫刻／工芸／陶芸／写真／デザイン／広告／建築／漫画	
音楽・芸能	678
音楽・芸能総合／クラシック音楽／ポピュラー音楽／邦楽／演劇／映画・映像／放送／舞踊／演芸	
スポーツ	680
陸上競技／野球／格闘技／登山	
その他	681

賞 名

文学	681
文学全般／小説／記録文学・評論・随筆／詩・短歌・俳句・川柳／戯曲・脚本／児童文学・絵本／文学その他	
文化	685
文化一般／学術・学芸／出版・読書・図書館／報道・ジャーナリズム／人権・男女共同／福祉・教育／郷土・地域／翻訳／文化その他	
産業	689
ビジネス・産業	
科学	689
科学総合／数学／理学／工学／情報科学／医学／薬学／農学／科学その他	
美術	695
美術総合／絵画／版画／書／彫刻／工芸／陶芸／写真／デザイン／広告／建築／漫画	
音楽・芸能	699
音楽・芸能総合／クラシック音楽／ポピュラー音楽／演劇／映画・映像／放送／舞踊／演芸	
スポーツ	702
スポーツ全般／陸上競技／野球／格闘技／スポーツその他	

人 名

【文学】

文学全般

会田 由	1
天沢 退二郎	23
ウェルズ, スタンリー	88
大伴 昌司	113
岡田 利兵衛	127
小場瀬 卓三	144
折口 信夫	146
キーン, ドナルド	201
グリム兄弟	213
桑原 武夫	220
ゲーテ, ヨハン・ヴォルフガング・フォ	221
西條 八十	247
白川 静	308
須賀 敦子	314
関根 慶子	328
高橋 邦太郎	339
高山 樗牛	348
辰野 隆	360
土井 晩翠	396
戸川 秋骨	399
中島 健蔵	416
中野 重治	421
西脇 順三郎	440
橋本 循	458
福島 正実	495
水上 滝太郎	570
武者小路 実篤	583
ロゲンドルフ, ヨゼフ	646

小説

芥川 龍之介	12
鮎川 哲也	24
有島 武郎	26
泡坂 妻夫	28
アンデルセン, ハンス・クリスチャン	29

池田 満寿夫	40
池谷 信三郎	41
石川 啄木	45
石坂 洋次郎	48
泉 鏡花	53
伊藤 左千夫	63
伊藤 整	64
井上 靖	71
岩下 俊作	80
内田 百閒	90
内田 康夫	91
江戸川 乱歩	99
大江 健三郎	105
大原 富枝	115
大藪 春彦	118
岡本 綺堂	128
小川 未明	131
尾崎 士郎	135
尾崎 秀樹	136
大佛 次郎	137
織田 作之助	138
開高 健	147
門田 泰明	159
川端 康成	176
菊池 寛	180
岸田 國士	183
北川 千代	185
木山 捷平	198
久保田 万太郎	207
クリスティー, アガサ	212
小泉 八雲	224
小島 信夫	232
小谷 剛	233
小林 多喜二	237
小松 左京	241
ゴンクール兄弟	245
斎藤 緑雨	254
坂口 安吾	258
笹沢 左保	268
佐藤 愛子	271
司馬 遼太郎	287
柴田 錬三郎	290
島崎 藤村	294

北海道

秋山喜代賞	10
秋山財団賞	10
厚田ふるさと平和・文学賞「子母澤寛文学賞」「愛狼記賞」《石狩市》	301
有島青少年文芸賞	27
伊藤整文学賞《小樽市》	64
井上靖記念文化賞《旭川市》	72
小熊秀雄賞《旭川市》	134
小田観登賞《札幌市》	138
花童子賞《函館市》	164
斎藤茂吉記念中川町短歌フェスティバル 茂吉記念賞・志文内賞	253
鮫島賞	279
児童文学 草原賞	157
写真の町 東川賞〔飛騨野数右衛門賞〕《東川町》	485
青柳賞《函館市》	321
田辺賞	369
冬眠子賞《小樽市》	299
洞爺村国際彫刻ビエンナーレ〔小田襄賞〕 《洞爺湖町》	139
中城ふみ子賞（中城ふみ子賞実行委員会） 《帯広市》	418
中城ふみ子賞（辛夷社）《帯広市》	418
中原二郎賞《旭川市》	423
中山周三賞	428
新田寛賞《帯広市》	441
野原水嶺賞《帯広市》	451
PMFレナード・パースタイン賞《札幌市》	478
永室冴子青春文学賞《岩見沢市》	486
舟橋精盛賞《帯広市》	510
本郷新記念札幌彫刻賞	523
本郷新賞《札幌市》	524
松浦武四郎賞《札幌市》	539
三浦綾子作文賞《旭川市》	555
三浦綾子文学賞《旭川市》	556
三岸好太郎記念平和賞《石狩市》	562
三岸好太郎・三岸節子賞《札幌市》	562
ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 〔南俊子賞/南俊子賞（批評家賞）/南俊子 批評家賞〕	571

青森県

あおり国際版画トリエンナーレ〔Classical部門（棟方志功国際版画大賞）〕《青森市》	583
石坂文学奨励賞	48
田村鷹賞《青森市》	261
馬奮賞	541
弘前大学 太宰治記念「津軽賞」 地域探究 論文 高校生コンテスト	358
不浪人賞《つがる市》	240

岩手県

岩手日報文学賞〔啄木賞〕〔賢治賞〕 ..	46, 575
少年少女の詩 江間章子賞《八幡平市》	101
高野長英賞《奥州市》	338
啄木・賢治のふるさと「岩手日報随筆賞」	46, 576
利根山光人記念大賞展トリエンナーレ・き たかみ	402
宮沢賢治賞・イーハトーブ賞《花巻市》	576

宮城県

秋吉久美子賞《仙台市》	11
いがらしみきお賞《仙台市》	37
「影を慕いて」歌謡コンクール全国大会《川崎町》	228
櫻井賞《仙台市》	263
障害者ありのまま記録大賞〔天沢退二郎賞〕〔大坂誠奨励賞〕〔久保田稔奨励賞〕 〔澤地久枝賞〕《仙台市》 ..	23, 109, 207, 280
白鳥吾賞《栗原市》	309
中村隆賞《仙台市》	425
日本金属学会ジェフリース賞《仙台市》	283
日本金属学会増本量賞《仙台市》	537
日本脳卒中の外科学会賞（鈴木賞）《仙台市》	321
原阿佐緒賞《大和町》	475
晩翠賞《仙台市》	397

賞になった人名事典

2026 年 10 月 25 日 第 1 刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

©Nichigai Associates, Inc. 2026

不許複製・禁無断転載

〈落丁・乱丁本はお取り替えます〉 〈中性紙北越淡クリームキンマリ使用〉

ISBN978-4-8169-3120-8

Printed in Japan, 2026

本書はデジタルデータを有償販売しております。
詳細はお問い合わせください。